

芸術にはホームが必要だ！

～全国の創造拠点をホームとして活用し、地域の魅力向上、地方創生に寄与を

2025.5.30

公益社団法人日本芸能実演家団体協議会

閉館となった国立劇場、神奈川県民ホール（共に再整備時期未定）、2024 年からの複数年に亘る長期改修となった Bunkamura、2026 年から 3 年間に亘る改修となった東京文化会館と、首都圏は更に深刻な劇場不足に見舞われている。国立劇場の一日も早い再整備と、2026 年度に創造・公開の場を失う総合舞台芸術であるオペラ・バレエ団体が直面する危機への対応が急務である。

歌舞伎・日本舞踊には花道のある和の劇場、能には能楽堂、落語には寄席、オペラ・バレエ・ミュージカルには劇場機構の整備された大劇場、オーケストラにはコンサートホール、ポップスにはライブハウス・アリーナ、演劇には台詞（声）が通る劇場が、地域の人々を迎えるホームになる。

ホームは美術館、博物館、伝統文化財とともにまちの魅力づくりの中心となる。

■迫りくる危機を乗り越え、オペラ・バレエ・オーケストラの魅力を地域社会で生かす

○全国には大規模な作品の仕込・転換がスムーズにできる舞台・機構、楽屋が整備され、オペラ・バレエ公演に適し、多くの観客を迎えられる以下の大劇場が存在している。

オペラ・バレエ団とこれら劇場が提携関係を結び、定期、継続的な公演活動はもちろんのこと、地域の人々、芸術家、学校や社会機関、地方公共団体と協力し、街ぐるみで芸術を楽しみ、体験、鑑賞できる魅力あるホームをつくる。

札幌文化芸術劇場 hitaru（北海道札幌市）／やまぎん県民ホール（山形県山形市）／高崎芸術劇場（群馬県高崎市）／オーバード・ホール（富山県富山市）／横須賀芸術劇場（神奈川県横須賀市）／アクトシティ浜松（静岡県浜松市）／愛知県芸術劇場（愛知県名古屋市）／三重県文化会館（三重県津市）／滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール（滋賀県大津市）／フェニーチェ堺（大阪府堺市）／兵庫県立芸術文化センター（兵庫県西宮市）／岡山芸術創造劇場 ハレノワ大劇場（岡山県岡山市）／レクザムホール（香川県民ホール）（香川県高松市）／iichiko 総合文化センター（大分県大分市）／福岡市民ホール（福岡県福岡市）

○新国立劇場はバレエ団が、りゅーとぴあ（新潟市芸術文化会館）は舞踊団「Noism」がホームとしている。

○オペラ・バレエの公演にはオーケストラの存在が欠かせない。これらの劇場と地域のオーケストラと連携を図ることが有効である。

<オーケストラのホーム>

全国には多くのオーケストラが存在し、コンサートホールとの継続的な利用関係にあるホームを持っている。このほかコンサート開催に適したホールが存在し、この継続的、定期的な演奏会開催など連携の促進により準ホームを作り出す支援は、地域に多くの創造・鑑賞・体験の機会がもたらされる。

<ホーム>（ホールに楽団事務所も併設）

札幌コンサートホール Kitara(2028 年度から 2 年間改修予定)と札幌交響楽団／やまぎん県民ホールと山形交響楽団／高崎芸術劇場と群馬交響楽団／東京文化会館と東京都交響楽団／すみだトリフォニーホールと新日本フィルハーモニー交響楽団／ミュゼ川崎と東京交響楽団／石川県立音楽堂とオーケストラ・アンサンブル金沢／京都コンサートホールと京都市交響楽団／兵庫県立芸術文化センターと兵庫県立芸術文化センター管弦楽団

<準ホーム>（特定のオーケストラが定期的に公演を開催）

札幌文化芸術劇場 hitaru／鶴岡市文化会館／酒田市民会館／仙台市青年文化センター／いわき芸術文化交流館／新潟市民芸術文化会館 りゅーとぴあ／太田市民会館／杉並公会堂／ティアラこうとう／横浜みなとみらいホール／可見市創造文化センター／三重県文化会館／滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール／ふくやま芸術文化ホールリーデンローズ／愛媛県県民文化会館／島根県芸術文化センター いわみ芸術劇場グラントワ

<準ホーム>（オーケストラの公演が可能で準ホームになることが可能）

あきた芸術劇場ミルハス（秋田県秋田市）／いわき芸術文化交流館（福島県いわき市）／所沢市民文化センター（埼玉県所沢市）／上田市交流文化芸術センターサントミュージゼ（長野県上田市）／鳥取県立県民文化会館（鳥取県鳥取市）／島根県芸術文化センター いわみ芸術劇場グラントワ（島根県益田市）／広島県立文化芸術ホール（広島県広島市）／ふくやま芸術文化ホールリーデンローズ（広島県福山市）／福岡県国際文化情報センターアクロス福岡（福岡県福岡市）／長崎ブリックホール（長崎県長崎市）／宮崎県立芸術劇場メディキット（宮崎県宮崎市）／おきなわ文化芸術劇場なはーと（沖縄県那覇市）

■多様な実演芸術にもホームがあり、拡充と発展が全国の魅力づくりに貢献

実演芸術にはその独自の表現形態があり、その分野の表現に相応しい舞台、機構・道具、照明、音響、楽屋、客席、ロビーを備えた劇場、ホールが必要である。その空間がホーム・殿堂として機能することで、各分野の創造活動を活性化し、観客に質の高い、多様な作品を提供することが可能となる。観客と共に成長するホームが必須である。

○全国に多様な芸術のホーム、準ホームをつくり、地域の魅力向上を

<伝統芸能のホーム>

人材育成、調査研究を担う伝統芸能のナショナルセンターとしての国立劇場の一日も早い再整備が必要である。文楽には国立文楽劇場、組踊には国立劇場おきなわ、歌舞伎には歌舞伎座がホームとして存在する。日本舞踊、邦楽などの分野はホームを失っており、浅草公会堂、日本橋劇場（2024 年 6 月から 2025

年 10 月改修閉館)、渋谷文化総合センター大和田、紀尾井ホール (2025 年 8 月から 2026 年 12 月改修閉館) などが新たに準ホームとして有効活用されるための整備が必要である。

<能楽のホーム>

能楽の長い歴史は、全国各地にさまざまな主体が能舞台を形成してきた。ナショナルセンターとしての国立能楽堂と全国の地域に支えられ開かれた能楽堂、能楽界の人材を育むホーム能楽堂、このネットワーク形成が新たな魅力を創り出す。

<ホームと準ホーム> 国立能楽堂／小樽市能楽堂／中尊寺白山神社能楽堂／川崎能楽堂／まほろば唐松中世の館能楽殿／古典芸能伝承の館能楽堂／高岡市青年の家能舞台／プラザ萬象舞台／りゅーとぴあ能楽堂／石川県立能楽堂／富山能楽堂／ハピリンホール能舞台／青葉の森公園芸術文化ホール能舞台／セルリアンタワー能楽堂／川崎能楽堂／鎌倉芸術館／久良岐能舞台／こしがや能楽堂／横浜能楽堂／靖国神社能楽堂／MOA 美術館能楽堂／大津市伝統芸能会館／彦根城博物館能舞台／春日神社能楽殿／湊川神社神能殿／沼名前神社能舞台／名古屋能楽堂／岡崎城二の丸能楽堂／豊田市能楽堂／奈良春日野国際フォーラム／後楽園能舞台／アスティールプラザ能舞台／厳島神社能舞台／高知県立美術館舞台／松山市民会館能楽堂／大濠公園能楽堂／平和市民公園能楽堂／青島神社能楽殿／かごしま県民交流センター県民ホール能舞台／出水神社能楽殿／藤崎八幡宮能舞台／高砂神社能舞台／能舞台豊響殿／道後能楽堂 能舞台 千寿殿／由布院ことぶき花の庄能舞台

<能楽界のホーム> 観世能楽堂／鍬仙会能楽研修所舞台／矢来能楽堂／梅若能楽学院／代々木能舞台／武田修能館／宝生能楽堂／十四世喜多六平太記念能楽堂／杉並能楽堂／鎌倉能舞台／金剛能楽堂／京都観世会館／大槻能楽堂／香里能楽堂／大江能楽堂／山本能楽堂／朝陽会館／大阪九阜会館舞台／冬青庵能舞台／豊中不動尊紫苑閣能舞台／庄内能楽館／堀記念金井能楽堂／栄能楽堂／月桂殿能舞台／河村能舞台／嘉祥閣能楽堂／萬祥殿能舞台／山中能舞台／住吉神社能楽殿／上田観正会能楽堂／有馬能楽堂／喜多流大島能楽堂／雅之郷能楽堂／森本能舞台／白金能楽堂／住吉神社 能楽殿／井内能舞台

<落語のホーム>

毎日公演し、噺家が育まれ、ショーウインドウでもあるホームである寄席・演芸場が、東京、名古屋、大阪、神戸に存在する。国立演芸場が閉館したが、このホームから噺家は全国に出かけ笑いで地域を包んでいる。そして新たなホームづくりの芽も芽生えつつある。支援が必要である。

<ホーム> 鈴本演芸場／新宿末廣亭／浅草演芸ホール／池袋演芸場／天満天神繁盛亭／神戸新開地・喜楽館

<準ホーム> 横浜にぎわい座／大須演芸場／弘前かだれ劇場／花座

<演劇のホーム>

演劇は、それぞれの表現に相応しいホームを芸術団体・興行会社が自ら設置、あるいは地方公共団体設置のレジデント専用劇場が存在し、多数の劇団等が共用する専門劇場で定例的な公演を行っている。このホームから全国各地にも向い各地で公演を行っている。全国に新たなホーム、準ホームづくりが必要である。

<ホーム（専用）> 四季劇場グループ／歌舞伎座／新橋演舞場／大阪松竹座／京都南座（松竹）／帝国劇場（閉館中）／日比谷シアタークリエ（東宝）／明治座／御園座／新歌舞伎座／博多座／わらび座／静岡芸術劇場／富山県利賀芸術公園／うりんこ劇場／兵庫県立尼崎青少年創造劇場 ピッコロシアター／江原河畔劇場／鳥の劇場／森の劇場・しいの実シアター

<ホーム（専門）> 新国立劇場小中劇場／東京芸術劇場／本多劇場グループ／紀伊国屋ホール／シアターX／ウイングフィールド／メイシアター／扇町ミュージアムキューブ

■全国に芸術のホームをつくるための施策方針を打ち出し、多面的な施策の総動員を

芸術家、団体と全国の劇場、ホールとの連携づくりを促進する施策と芸術団体への創造活動及び困難さを増す劇場等の維持・継続のため、長期的視点に立った以下の計画的、継続的な予算、税制など措置が必要である。

- 全国の地域に芸術創造の主体（芸術団体）を育成する助成をつくり拡充を
- 全国の芸術交流、巡回を促進する巡回公演助成の充実を
- 地方公共団体が設置した劇場等の改修、再整備を進める際の予算措置を
- 民間劇場は採算性の観点から維持は困難で、改修、再整備、新設の際に融資、投資への優遇措置とホームの固定資産税減免を

ホームでの地域ぐるみの充実した多様な活動が全国への発信とつながり、ホームとホームの交流により全国の芸術活動の活性化とまちの魅力向上へつながる、中長期的な政策の確立が必要である。

<ホームとは> 芸術団体が毎年定例的に公演を行う本拠地・劇場であり、いくつかのモデルがある。

一つの専用劇場を多数の芸術団体がホームとして使う例は多い。

レジデント型	芸術団体と劇場・ホールが同一組織として一体的に運営される、または芸術団体・興行会社が設置する専用劇場・ホール
フランチャイズ型	芸術団体と劇場・ホールは別組織であるが、専用あるいは優先的に利用できる関係を有する劇場・ホール
定期利用型	芸術団体と劇場・ホールは別組織であるが定期的、継続的に利用できる関係を有する劇場・ホール

<準ホームとは> 芸術団体が地元・本拠地から離れて定期的、継続的に利用する関係を有する劇場・ホール

* 例示した劇場・ホールは典型的なものとして選択的に示したもので、すべてではないことをご承知いただきたい。